

商船三井フェリーが創立20周年 環境にやさしい物流を提供



さんふらわあ ぶらの

当社グループのフェリー運航会社である商船三井フェリーが、今年7月1日に創立20周年を迎えました。2001年に会社設立、現在では茨城県・大洗～北海道・苫小牧間で大型の長距離フェリーを4隻投入し、首都圏と北海道を結ぶ旅客輸送並びに物流において重要な役割を果たしています。また、東京と九州を結ぶRORO船（注）サービスでは共同運航を含め7隻を投入、トラック・トレーラーなど車両輸送に従事し、首都圏のみならず九州の地域経済発展の一翼を担っています。

2017年には新造フェリー「さんふらわあ さつぽろ」「さんふらわあ ぶらの」が就航。2019年には新造RORO船「ぶぜん」「すおう」が就航するなど、さらなるサービスの改善にも取り組んでいます。

現在、世界ではより環境負荷低減に配慮した物流の在り方が求められるようになってきています。海上輸送は、トラックなどによる陸上輸送に比べてCO2の排出量を削減できる環境に優しい輸送手段として注目を浴びています。環境性能が高く、まとまった貨物を輸送できる海上輸送への転換、いわゆる「モーダルシフト」需要が高まっているものです。モーダルシフトはなり手不足や高齢化によるトラックドライバー不足の解決策としても期待されています。

■フェリー

北海道航路（4隻）	さんふらわあ さつぽろ さんふらわあ ぶらの さんふらわあ しれとこ さんふらわあ だいせつ	毎日2便 （日曜日除く）
-----------	---	-----------------

■RORO航路

東京／博多航路（4隻）	さんふらわあ とうきょう さんふらわあ はかた 他社共同運航2隻	毎日 （一部の発着を除く）
東京／対馬航路（3隻）	むさし丸 ぶぜん すおう	毎日 （一部の発着を除く）





また、商船三井フェリーは、安全・安心を探求するさまざまな取り組みも行っています。

その一つが、デジタル技術を活用して船舶の安全運航につなげる取り組みです。大洗港の岸壁で「さんふらわあ しれとこ」による自動離着栈の実証実験を成功させたことも、その一例です。海難事故の7割はヒューマンエラーによるものと言われています。自動離着栈を含む船舶の自律運航の技術が、海難事故の防止と船員の負担軽減につながることを期待しています。

さらに、陸上に比較して劣る海上の通信環境の改

善も課題です。今後、「船舶におけるブロードバンド通信の導入」と安全かつ効率的な「海運のデジタル化」を推進していきます。

海に囲まれた日本では、旅客や貨物を長距離でより確実に運ぶ需要が大きく広がっています。環境にやさしい輸送手段である船舶をより安全に運航する

(注)RORO船：船に備えたランプウェイと呼ばれる通路から自走で乗り込んだ各種車両をそのまま運搬する船舶のこと。